パワー（電力・動力）

2002 秋

株式会社ホンマ電機

情報紙45号

発行所
株式会社 ホンマ電機
神奈川県相模原市上鶴間1丁目12-1
電話 042(746)1616(代)
E-mail:honmadenki@jcom.home.ne.jp
発行責任者 本間光広

本間俊三

国際NGOオイスカを舞台に活躍

緑化、環境に新しい視点で取組む

さる八月二十六日から十日間にわたって南アフリカ・ヨハネスブルグで開かれた『地球環境サミット』は、一七〇ヶ国を超える地域が参加し、各国の首脳、企業、NGO(非政府機関)など約六万人が集う今年最大の国際会議となりました。この会議に日本のNGOの代表として参加した環境NGO「オイスカ」には、ホンマ電機の社長本間俊三も早くから活動に参加しており、環境・緑化、社会貢献などに積極的に取組んでいます。

国際ボランティア・オイスカの活動

ホンマ電機が支援する「オイスカ」グループは、国連など国際関連機関では日本を代表するボランティア団体として広く知られています。これまでの活動がアジア・太平洋地域を対象とする、発展途上国の農業指導や植林活動が中心であったことなどから国内ではあまり知られていませんが、創立から四十年以上の歴史を持ち、政府機関のJICA(ジャイカ)などよりも古く、日本の国際ボランティアの草分け的な存在でもあります。

同グループの発足趣旨は、アジア・太平洋地域の平和維持には食料問題の解決が第一と考え、途上国の各国が自らの力で自給自足できる、農業体制の確立を目指すことに主眼を置いて展開されてきました。これまでにフィリピン、タイ、インドネシア、ミャンマー、スリランカ、マレーシア、パプアニューギニア、フィジー、バングラディシュなどオイスカの考えに賛同する国々の二十二ヶ国・地域に支部ができ、それぞれの国に活動拠点となる研修センターを設立しています。日本では四地域にあります。

オイスカの支局役員・本間俊三

国連からジェネラルの称号

これらの実績が国際的な評価を受け、一九九五年に国連から国際赤十字と同格称号である『ジェネラル』の資格が与えられています。現在国内には全国七十二ヶ所に支部・支局が設立されており、本間社長は四年前から東京地区の支局役員を務め、同グループを通じて国際協力と緑化活動に広く参加してきました。オイスカは今後、国内活動にも積極的な取り組みを見せており、本間社長への期待も高まっています。

オイスカ・四国研修センター

オイスカ研修センターでは途上国の地域リーダーを目指す青年が招かれ、産業育成に適した技術を修得します。

日本の支援でマングローブを植えるフィリピンの小学生たち

ボランティアがフィリピン・アプラの子供達と共に

BUSINESS フィールド

サンデーサン フラカッソ 三十八店舗の電源工事

ココアマシーン設置

ファミリーレストランチェーン店・サンデーサン(本社・山口県徳山市)と、同グループのイタリアン料理専門店フラカッソのドリンクバーに、しっとりと甘く香ばしいココアを作る、ショコラディスペンサーが設置されました。

ホンマ電機では、首都圏にあるサンデーサンとフラカッソの三十八店舗での、マシーン設置に伴う電源工事を行いました。電源工事は、これらの店舗が閉店してから着手され、翌朝の開店までの間に工事を完了させるという、真夜中の工事となりました。

右から二つ目:ココアマシーン、次がコーヒーマシーン

ホンマぷらざ

㊶ 近況報告

新事務所に移転一年六ヶ月

国道16号線に面した当社の旧事務所は、建築以来25年経過し、設備の老朽化やIT化対応の不都合などの影響が出てきました。そこで、現部品倉庫の横に、大家さんのご理解により新事務所を建築して一年六ヶ月経ました。

管理部門と現業部門が接近したことで業務の効率が上がり、お客様へのサービス向上が図られたと考えます。また、社内の九台のパソコンはネットワーク化され、サーバー機能の充実をも図り、事務能率は一段と向上しました。

ホンマ電機を支える 社員の近況

新入社員紹介

中田京子
復職 平成14年7月
(平成13年5月産休・育児休業)
事務員

座親賢二 (53歳)
入社 平成14年5月
電気工事士
(空調サービス)

渋谷 強 (31歳)
入社 平成14年5月
電気工事士
(空調サービス)

このイメージマークはサービスマークとして登録されております。

神奈川の未来　政治にドラマ！

本間としぞうの会（後援会）結成大会

9月16日（月）　けやき会館5階

熱気あふれる後援会結成

”県政に新風“を標ぼうする本間としぞうの会・後援会の結成大会がさる九月十六日けやき会館にて、相模原市の各界の方々をはじめ、およそ四百人が参加のもとに華々しく開催されました。南部を代表する本間としぞうへよせる地域の人々の熱い期待そのままに、盛大な会となりました。

「南部から代表を」の声に応えて結成

大塚輝夫氏の開会宣言に続き、黒河内三郎氏・川合貞義氏ら二十九人の後援会発起人を紹介。

黒河内三郎
発起人代表

黒河内代表挨拶　小川市長の南部後援会結成を機に交流ができ、解散後「相模大野を良くする会・すずめの会」を創り、南部後援会に合流した輪が広がって発起人代表に。「本間氏の誠実、温厚、人間性の豊さに惚れた。代表として市のために励んで下さい」と挨拶。

川合 貞義
幹事長

川合幹事長の経過報告　本間としぞうの会結成までを説明。市会で精力的に活躍する行動力を活かして、との支援者の要請により決意したのが七月中旬。七月二九日に記者発表、市内全域にわたる後援会結成の準備会が開かれ発起人が参加して、支部結成の協議も行われ、各地区に多数の支部が誕生。山形県人会支部をはじめ各団体もあります。

本部役員発表　顧問団・代表黒河内三郎氏、名誉顧問・甘利明衆議、顧問・清水畏三前桜美林名誉学園長、篠崎源太郎前県電気工事工業組合理事長、杉本栄治神電工組相模原地区本部長。他五人の相談役の方々。

来賓紹介では小川勇夫相模原市長、石井千太郎市議会議長、由比昭夫市議会市民クラブ会長らが紹介され**来賓挨拶**がありました。

本間としぞうの挨拶では、ここに至るまでの決意や、政治を担当する心構えが語られました。

㈱日本美装から花束の贈呈。有泉健一氏が**決議文の朗読**後、全員の決意も新たにシュプレヒコール。雨にもかかわらず大勢の支援者が詰めかけた立派な結成大会となりました。

都築 久一後援会長

NHK大阪放送局局長を歴任、退職後は自治会・ボランティア活動に専念、家族づきあいもある本間の古くからの支持者、今回乞われて会長を承諾。

支援者たちで一杯の会場

相模原市各界の来賓のあいさつ

小川市長　来年、中核都市となる代表に県と連携してやれる能力ある人が要る。県議の定員は市で七人から八人に増える見通しで、市会での信用や人格、IT技術も優れた実業出身の広い見識ある本間氏に金的を射止めて頂きたい、との祝辞と挨拶でした。

小川 勇夫
相模原市長

石井市議会議長　市民クラブの政調会長として活躍した本間市議を失うのは残念だが、ぜひともご成功されることを願う。

岩崎正三商工会議所副会頭　貴社の人のために取組む精神で県政に新風を。「身近な市民の代表」としてご活躍を期待する。

篠崎源太郎前商工会議所会頭　これだけ大勢の支援者と立派な発起人に、成功は確実と思うが、皆様のお力で代表の誕生を願う。

あいさつ、「市民の期待に応えるのが使命」

「南部から代表を」との声に応えて決意した真意は、衆議・県議・市長選を共に戦った同士である後援会幹部や発起人からの説得力ある要請。

本間　それと市町村の合併と平行して進行中の都道府県改革の実現と取組みへの希望。行政改革の目標は、中核都市になるのを含めて国民や市民へのサービス向上や負担の軽減。政治を担う心構えは正直なこと。雪印食品や日本ハム牛肉偽装問題、東京電力の点検記録改ざんなど消費者を欺くのは許されない。市民の声を親身に考えかつ誇れる代表として応えるのが私の使命と、必勝へのご協力を願っての挨拶でした。

●企業ルポ　●お客様紹介㊹

株式会社 たまや　浜見平店

茅ヶ崎市松尾1丁目20番　☎(0467)86-2323　FAX(0467)86-2324

AM10:00～PM11:00
平成15年8月まで無休（正月2日間は休日）

店長
岩澤剛彦氏

本部
茅ヶ崎市浜竹1-6-38
☎(0467)86-1333
FAX(0467)86-7262

スーパーマーケット・たまや

世界の新鮮なフルーツの豊かな品揃え

株式会社　たまや

・創　業	大正元年
・設　立	昭和27年9月
・資本金	9千800万円
・代表取締役	原　正道氏
・年間売上高	110億円（平成13年8月）
・事業所数	8ヶ所
・従業員数	150人
・事業内容	スーパーマーケット（食料品を主体とした小売業）

9月19日にリニューアルオープンした**浜見平店**は全店舗中、最も長い歴史をもつ店です。

リニューアルによって店内は見違えるように明るくなり、通路も広く奥行きも深くなり、品揃えも豊富で更に充実しました。大きな浜見平団地を背景にもつ同店は、さまざまなアイディアを凝らし、地域密着型に徹して古くからのお客様の期待やニーズに応えられるよう、全社員が励んでいます。

近隣地域にはスーパーマーケットが3店、茅ヶ崎駅近くにはジャスコ、イトーヨーカドーもあって競合店も多く、同店では競争激化に備えて帰宅の遅い人のために閉店時間を改装前より2時間延長しました。また改装後、特に力を注いでいるのが新鮮な魚介類の水産部門や惣菜部門で、それが特色でもあります。

特に好評なのが鮮魚をさばく対面コーナーや、揚げ物や炊き込みご飯など家庭の味をより追求した惣菜もの。これらは働く女性や高齢者、核家族などの食生活に即したもので、まさに社会状況を反映した商品構成といえましょう。

岩澤店長が同店の繁栄に向けて全社員とともに常に心がけていることは、1、お客様に楽しみながらショッピングして頂ける店にすること。2、お客様と店員の笑顔が絶えない店にすること。3、改装の効果を引出し、「たまや」のモデルケースとなることなどです。

今回の改装にあたっては2週間もの休業をしての大掛かりな工事であり、同店のリニューアルは全社的に大きな意味をもっているといえます。

たまやは創業時の大正時代から幾年もの激動の時代を生き残り、そして今、リニューアルによって競争激化の時代を乗りきるための新たな挑戦を開始しました。

ホンマ電機では今回の改装工事にあたり、照明と電気配線を担当しました。

好評！新鮮な魚介類コーナー